

## 【事例報告】

### 静岡県富士市立高等学校「市役所プラン」 静岡県富士市教育委員会指導主事 眺野 大輔氏

司会 午後の部の「事例報告」、二つ目は静岡県富士市立高等学校の「市役所プラン」を静岡県富士市教育委員会指導主事の眺野大輔先生にご報告いただきます。眺野大輔先生、よろしくお願いいたします。

#### 富士市立高等学校について

眺野 よろしくお願ひします。静岡県の富士市の教育委員会の指導主事の眺野と申します。最初に、なぜ学校の事例報告なのに教育委員会の指導主事なのかということからだろうと思います。私のいる学校は、もともと富士市立吉原商業高校という商業高校だったのですが、地域の状況とかこれからの社会のなかで高校はどういうあり方で行ったらいいのかといろいろ検討が重ねられまして、そのなかで新しい学校をつくっていこうということになり、ここに書いてあります総合探究科、ビジネス探究科、スポーツ探究科という三つの学科を併設した総合型の専門高校として生まれ変わろうという改革の計画が立ちました。

その改革を進めるにあたって、あまりにも大きな改革のため、「では計画つくったのでお願いします」といって簡単に学校が動くようなものではなかったもので、市の教育委員会が指導主事を学校に二人置いて、その専門の業務を行なってきました。そのうちの一人が私だったということです。

平成 21 年度から先生方と一緒に 2 年間準備をして、平成 23 年 4 月にリニューアルした学校がスタートしました。今年でちょうど 3 年目になります。すべての生徒が、新しく富士市立高校になってから入学した生徒になったという状況です。

#### 学校の目標について

基本的にはこちらの資料にまとめ直してありますが、学校として何を目指そうかということで3本の柱（CDI）、コミュニティー、ドリーム、インクワイアリー（探究）の三つを柱にして改革していこうという学校になりました。

その中でどういう生徒を育てたいかということ、一言で言えば、これからの変化の激しい時代を自分の力で切り拓いていける「自律した若者」を育てていこうということです。そのために必要な力の一番目は、主体的に学び続ける力です。それはただ教えてもらうのではなくて、自分で探究して、自分で主体的に学び続ける力であり、もう一つは、表現力をきちっと持って異なる価値観とか異なる意見なども受け容れながら、しっかりと自分の考えを相手に伝えていけるような力です。最後は、富士市や社会に貢献できるような力を持った生徒たちを育てていこうということです。

そのためにいろいろな取り組みがあります。これはまだ印刷されていないのですが、新しくできる学校案内です。「探究学習」というのは探究ハイスクールの主な実践です。「キャリア教育」がドリームハイスクールの実践。「コミュニティー・ハイスクール」というのは、ここには出ていないのですが、地域連携の活動で、非常に重視していまして、商工会議所の青年部の方たちとか、地域の公民館の方ですとか、町内会の方ですとか、本当に多くの地域の方に一緒になって学校の授業を進めてもらっています。そういう 3 本の柱で学校が成り立っている学校としてスタートして 3 年目となり、かなり軌道に乗ってきた状態です。

## 総合的な学習の時間「究タイム」

教育の柱として何を据えるかということでいろいろ悩んだ末に置いたのが「総合的な学習の時間」です。総合的な学習の時間も一般的にされているような総合的な学習の時間として何かをするのではなくて、「探究学習」として探究的な学びをどのようにつくっていきけるかということです。3年間を通して積み重ねていくようなカリキュラムを設定していこうと考えてスタートしました。

その「探究学習」と呼ばれている総合的な学習の時間は学校で名前をつけていいことになっているので、うちの学校は「究タイム」という名前をつけています。半年ごとに単元を変えています。大人もそうですが、高校生が1年間同じテーマで学び続けるというのはむしろかしいですね。飽きてしまう。

ですから、半年ぐらいでテーマは変わっていくのですが、そこでやっている勉強の仕方とかテーマについてのアプローチの仕方みたいなものはずっと継続的に、先ほど原田先生のお話にもありましたが、課題設定して、情報収集して、整理して、まとめ表現をして、さらにまた次のサイクルという、サイクルが回っているカリキュラム設定になっています。

### 第1単元「序」(1年生前期)・第2単元「論」(1年生後期)

1年生は、最初は「序」です。中学校、小学校でいろんなスキルを学んでくるのですが、それを標準化するというのでしょうか、うちの学校ならではのやり方でみんな揃えていきたいと思います。ブレイクストーミングとかKJ法とか発表の仕方などを、こんなふうにするのだということをもみんなで繰り返し体験しながら覚えていきます。

後半は「論」です。ディベートをやるのですが、ただディベートとして試合が上手にできるというよりは、本当に必要な情報をきちんと集められるかどうか、きちんと相手の論に対して的確に反駁できるかどうか、さらにそれに対して答えられるかどうかという、思考力というのでしょうか、判断力みたいなものを養成するところに重心を置いています。実際に試合はそんなに素晴らしいものができるわけではないのですが、そこでの姿というものを期待しているということです。

### 第3単元「活」～市役所プラン～(2年生前期)・第4単元「究」・第5単元「夢」

2年生になると、第3単元は「活」という名前になっています。富士市が抱える課題に高校生として何ができるかを考えてプレゼンしていこうという取り組みで、今日はこの単元の取り組みが発表の中心になります。

その後、第4単元の「究」では、これまでの体験の中からだんだん見えてきた、自分が興味を持っているテーマについて、個人のテーマとして一人で更に調査をしながら深めていくという取り組みです。

3年生では、そういう2年間の流れを踏まえて、将来どうなっていこうかということを心に決めるという流れの全5単元になっています。

### 「究タイム」のカリキュラムの特徴

今日の話の中身を分かりやすくするために、概要としてどんな特徴があるかというところを少し押さえておきたいと思います。カリキュラムの特徴としては、先ほど3学科紹介しましたが、学科

独自でやるということではなく、3学科共通で、すべての生徒が同じプログラムでやっていくということです。テーマとして扱うものは変わりますが、単元の流れは基本的には同じということです。

商業の先生方がもしかしたらいらっしゃるかも知れませんが、商業科は課題研究で総合的な時間は代替できてしまうのですが、本校では課題研究も総合的な学習の時間も両方行っています。それぞれで代替し合うようなことはしていません。

授業の中身ですが、単元の計画の4番指導計画に「ただし、『情報』の授業時数を含む」と書いてあるのですが、これは総合的な学習の時間と情報の時間を完全に連携させて授業を組んでやっているということです。ですから、この時間の一部は情報の授業をやっている内容があります。これは情報の授業をしているということです。

それ以外にも情報という授業は、ご存じの方が多いので、いちいち言うことではないと思うのですが、後半になると、課題解決の方法とあって、どういうふうに情報収集して、課題解決するかということも書かれているわけです。それを情報の授業は情報として別のテーマとするのではなくて、そういうことを総合的な学習の時間でもやっているのだから、そのテーマをそのまま活用するという流れでリンクさせているということです。

## 「究タイム」の校内組織の特徴

校内組織としての特徴としては、一体だれが総合のカリキュラムを立てるのかということはその学校の学校で非常に困るところだと思うのですが、本校では総合的な学習の時間の企画・運営とかすべての調整をする専門の分掌をつくってしまいました。研修課と呼ばれる課をちょっと広げて、その課に総合的な学習の時間のコーディネーターとしての役割を全部持たせてしまって、各学年の担当者も全体の担当者もこの分掌の所属の職員であるという分掌です。

情報と総合を完全にリンクさせているということで、先生も両方の授業に同じ先生を配置して、どちらの授業の時間にどちらをやっても同じ先生がいるので大丈夫という持ち方にしてあります。また、学年全体で同じ単元で授業をやろうと思うと、先生方に情報を提供して、お互いに共通理解をする時間が必要になるので、必ず週に1回、授業の時間割のなかに打ち合わせができる時間を設定しています。

## 「究タイム」の学習環境の特徴

学習環境としては商業高校だったので、コンピューターの部屋が5部屋もあるので、必ず総合の時間はコンピューターの部屋が使えるように調整してあります。ちょうどコンピューターの部屋の隣に図書館もあるので、その図書館と情報の教室を使って、情報センターのような感じです。大きいテーブルでポスターつくったりするというような活動は多くのクラスが図書館でやって、「ちょっと調べている内容が足りないのだから、隣に」といって情報の担当の先生といっしょに隣の教室に行って、パソコンを使って何人かの生徒が調べて、調べ終わると戻って、また総合のグループに入っていくというような授業の進め方をして、教室の環境としてもそういう使い方をしていきます。

## 2年生(第1単元)「地域課題の現状を知る」

本題の第3単元の「市役所プラン」の話に入っていこうと思います。単元の目標は地域住民の一人として、この地域にどんな課題があるのかをまず知ることと、そのためには何をしなければいけないのかということを知っていこうということ、さらにそれを自分で解決していけるような力をぜひつけていってもらおうということです。それをするために、先ほどの岩槻の高校と同じな

のですが、やはり全員ではとても難しいので、4人グループで半期を通して活動をするようにしています。

単元の流れとしては、高校生には地域の課題が何であるか知って、それをどうしようと言ってもあまり目標にならないので、高校生には「この市がより良くなるように、高校生として何ができるかを考えよう」というミッションを与えて授業を進めていきます。我々の目標は先ほどの目標ですが、生徒の目標は「この市に対してどういう提案ができるのか」というのが目標になって、それをモチベーションにしてやっっていこうということです。

これを継続するのは、先ほどの原田先生のお話にもあったようになかなか難しいのですが、本当に口が酸っぱくなるぐらい言っていくというのが我々指導者側の配慮するところかと思っています。

校外学習は当然します。先ほどの岩槻で言うとフィールドワークと呼んでいたところです。外に出て行って、実はこれを最初の年にやったときは、どちらかというと「行って話を聞いてくる」という感じでした。「行って話を聞いてくるぐらいだったら、別に来てもらってもいいのではないか」ということもあったので、「行って何かをしてくる」という取り組みにしようということになりました。今年はあるべく行った先でその課題の解決に少しでもつながるような取り組みを実際に少しでもいいからしてこようという校外学習にしました。

学校の中も先生とか生徒だけで閉じているのではなくて、校外学習や外部の講師の先生に来ていただいたりして、外の方にいろいろ入ってきてもらう、自分たちも出るということで、コミュニティー・ハイスクールの特徴がここで出きます。

## 2年生(第1単元)「地域課題の現状を知る」(オリエンテーション)

年度当初の時間で、集中的に「この時間はこういうことをするのです」というオリエンテーションをします。2年生は午前中4時間通して総合の取り組みをまず押さえる授業をしています。

単元計画の概要をこの図でも表現していますので紹介していきたいと思います。まず、最初に単元オリエンテーションを4時間かけて午前中に行うと言いましたが、この4時間で一通り課題の設定から、まとめて表現するまでが終わるようなサイクルになっています。

まずは自分の担当の課題がクラスごとで決まっています。その課題の何に興味があるのかを、与えられた情報の中から自分で情報を集めて、その中から選別して、興味があるものを見つけていこうというのが課題設定です。

まず、事務長さんが市民協働課から異動してきた方だったので、市民とどう協働していくか、一緒にどう問題を解決していくのかという市の役割について話をいただいた後、市が出しているいろいろなプランを読み込んで調べていきます。その写真を用意していますのでご覧下さい。また、市役所の高校生職員になるということで、辞令を交付していただき、「これからあなたたちは半年間、市役所の高校生の職員ですからね」ということで、モチベーションを持ってもらえるようにします。本当に職員として半年過ごすということです。

事務長さんの話を聞いた後、こういったプランを読み込んで、どういう現状になっているのか、何が問題か、いま市はどういうことに取り組んでいるのかというのを一通り読んでいくときに、ウェビングという手法で放射状にまとめていきながら、自分が興味のあるところはどこかというのを考えていくわけです。

それが大体まとまったところで、「この分野の、このあたりに興味があるなあ」といったところを、紙芝居風に3枚に要点をまとめてプレゼンをします。いきなりプレゼンテーションのソフトを使うのも何なので、紙芝居でまとめていくような方法で、グループ内でプレゼンします。その後、それぞれのグループから代表者に出てきてもらって、クラス内で発表するというのをその日にやります。また、班員がどういふ発表をしたかを自分で振りかえりのシートにまとめて、いろんな意見を聞いた上で、「今日、どのようなものに一番興味をもったのか」を自分なりにまとめて、次への課題にしてもっていくという流れです。

これは、実際に防災について勉強した生徒がつくったプレゼンシートですが、実際聞いてわかったこと、それ以外に情報を読み込んでわかったこと、これから自分はどういうことをしたらいいと考えたのかをまとめて意思表示みたいなことをして終わったところです。このようなプレゼンをするというのが一番最初で、この最初だけでもちょっとした探究的なサイクルなっています。

## 2年生(第1単元)「地域課題の現状を知る」(先進的な事例を調査する)

次のところでは、「どんなことをしたら課題に対して有効なのか」が見えてこないの、次は全国的な事例を調査します。これは、情報の時間としてやっています。インターネットで情報収集する項目とか検索の方法とかリテラシーの問題も合わせながら先進事例を調べて、その課題を考えます。自分の関心の高い分野の効果的な事例を見つけてみようという課題でやっているのですが、まず情報収集して、集めた情報の中から分析して、どれが本当に有効かということ判断して、まとめてグループ内で発表するというのを次の段階でやります。そうすると、「市としてはこういうことをやっている。全国ではもう少し違う状況でこのようなこともしている」という状況を生徒は知ることができるという内容です。

## 2年生(第2単元)「具体的な地域課題を発見する」ー探究のサイクル

次のサイクルは、ちょっと長いのですが、校外学習も含んだ実際の現場に出て体験する活動を含めた探究のサイクルということになります。外に出て自分が実際体験したものを通して、自分は本当にどうしなければいけないのか、どこが本当に課題だと思ったのかということを見つけてみようという内容です。

「防災」、「環境」、「観光」、「健康増進」という四つの課にクラスごとに分かれました。防災が2クラス、環境が1クラス、観光が2クラス、健康が1クラスという感じです。

校外学習先は、それぞれの分野に三ヶ所程度の校外学習先を用意してあって、その中からどこにするか生徒が決めていきます。それぞれの行き先について自分でホームページ等から情報収集します。その中でやはり調べきれないこともあるので、市の担当者から実際に説明を受けたりとか、質問をしたりとかして、「いま自分はこんなところまで調べたのですが、現状どうなっていますか」というのを行く前に押さえておく時間を事前学習として設けています。

それを踏まえて、「実際、行った箇所でどういふことを聞いてこなればいけないのか」をみんなアイディアを出し合って絞り込んで、優先順位決めて、「必ずこれは聞いてこよう」という質問事項をまとめます。それぞれ違う場所に校外学習で行くように設定して、戻ってきたときにいろいろな体験をした生徒たちが一つのグループになるようにしてあります。

「防災」は、町内会長さんと生徒5人ぐらいがグループになって「いま地域防災は、どのような

感じになっていますか」という現状を聞いたりします。その後で、町内会長さんの地元の町の危険箇所とか避難経路を教えてもらったりしながら町を歩いてくる活動をしました。

もう一つは、市の防災本部に行って、「いま防災対策は、どのようなことになっていますか」とか、市の施設とか設備とか備品をどういうふうに扱うのか聞いてきます。防災無線の体験もやってみたりもします。

もう一つは、外には出なかったのですが、学校が地域の避難所になっているので、実際に災害が起こったときにどう避難所をコントロールするかというシミュレーションのゲームがあるのですが、それを実際やってみて疑似体験しました。

「環境」は、1クラスなので校外学習先が2つだったのですが、静岡県の不法投棄の7割は富士山麓で、富士山に行くと、かなり悪質な不法投棄があるらしいのです。不法投棄は通報があると、すぐに片づけなければいけないのですが、生徒たちに不法投棄の処理をやらせてもらうように調整して実現しました。

もう一つは、その真逆で、「自動車の98%は再利用する」と言って捨てずにどこまでもリサイクルしてやろうという会社があって、実際に再利用するところの実習に行きました。そうすることで資源が使えるのに捨てられているのを見てくるグループと、使えそうもないものまでリサイクルしているところを見てくるグループで、二つのタイプの活動と情報を収集してきました。

「観光」は、静岡県はシラスがとても有名で、名産ですが、沼津とか静岡の由比が特に有名です。富士はその二つには含まれているので、どうやって掘り起こそうとしているかという現場を見に行ったり、各地に商店街があるのですが、寂れてきてしまっているの、それぞれの商店街がどういう取り組みをしているのかを、実際に一つひとつお店を回って調査してみたりしました。

「健康増進」は、彼らがプランを読んで高齢者の健康対策であるとか、小さい子たちの体力低下、運動能力の低下に強く関心を持ちました。実際にお年寄りの健康講座や体操教室に行って一緒に体操をしてきたり、年齢の低い子どもたちに対しては、幼稚園とか保育園に体操指導に行っているスポーツクラブがあり、そのスポーツクラブの方に来てもらって、小さい子に対するスポーツ指導を、どういうふうに行っているのか、どんな配慮があるのか、というようなことを教えてもらい、実習するという体験をしました。

学校に戻った後は、それをレポートとしてまとめる活動です。資料の最後のところにまとめがありますが、体験しただけあって強烈な印象をもって、「これはなんとかしなくてはいけない」とか、「もうちょっとこうできるのではないか」とか、それぞれの思うところは違うのですが、なんとなく聞いて「そうだったみたいだ」ではなくて、「自分の気持ちとしてこうしたい」というものを多くの生徒が持って帰ってきたという印象です。

## 2年生(第3単元)「地域課題の解決に向けた活動を計画する」

では、この次のサイクルはどういうサイクルかといいますと、先ほどレポートに「こうしたらいいのではないか」というものをあげましたが、それをグループの生徒で出し合って、吟味していくという作業に入っていきます。

それぞれの校外学習先で自分がレポートにまとめたいろいろな課題や案を出し合って、グループ

としてどれにまとめるかを吟味していく段階です。まずは課題を四つに絞ります。「実際に立てるとしたらどんな対策を立てられるか」というようなことを出し合うと、対策が「出るもの」、「出ないもの」というものが、パッと見てわかるぐらいに比較できるようになります。課題の下に「それを解決するためにはこのようなことができるのではないか」というものを生徒が挙げるのですね。並べてみると、それぞれが「いや、これは無理そうだが、これはなんとかいけるのではないか」という判断ができるようになります。こういうところでの判断が、ディベートでの判断力というのですか、なんとなくではなくて、データをもとにメリット、デメリットも吟味しながら判断するようにつなげています。

次は、「グループでの活動はこのような状況です」ということで中間発表します。中間発表すると、「誰かに何かしてもらいたい」というようなまだまだ他人まかせなことを言っているのが目立ちます。そこで、「それは君たちのやることではないよね」ということを伝え、「自分たちではこういうことなら本当にできるのではないか」ということをまとめていくのがこの後の流れになります。そのためには、まだまだ足りない情報も多いので、夏休みにグループごとに追加の活動に取り組みます。

スポーツ探究科の子などは、夏休み中の小学生対象に、高校生と遊ぼうという企画を公民館が立ててくれたので、そこで自分たちが習った小さい子への体操指導を実際に実技としてやってみるとか、そういう体験活動を通して情報を強めてくるということをしました。

このような体験を全部踏まえて、「ぜひこういうことを自分たちではしてみたい」「こうしたらいいのではないか」という高校生としてできることを提案して、実際に関わってもらった方、市の職員に来てもらって、そのプランに講評いただきます。ここまでが「市役所プラン」の流れということになります。

## 生徒の自己評価は

校外学習の後に自己評価してもらいました。そうすると、「事前学習では得られなかった情報を得ることができたか」という項目に対しては、98%ぐらいの生徒が「事前にどんなにインターネットで調べてもわからなかったことが行って聞いたり、見たり、したことから感じられて、情報を得られた」と言っていました。

やはり地域の課題はどこにもまだ発信されていないのです。本当に困っていることはまだ発信できない状態で、地域の誰かの中にあるということです。地域の課題というのは出向いて、相手が気づいていないものを気づいてあげて、「これ、課題だね」と言ってあげるようなものなのです。

そういうものをしっかりと見てこれた生徒もかなりいて、体験的に実際に外に出て行って、やってみるということの重要性が分かります。一番下に書いてありますが、その他で割合が大きかったのは、「グループで協力してできたか」という協同性ですね。こういうものをちゃんと意識して活動してきたということがよくわかる評価でした。レポートを読むと、強い実感をもって体験したことで、「なんとかしたい」という自分の思いになっていると感じます。また、お互いが考えたことを情報を共有することで、自分だけでは気づけなかったことにしっかりと気づけているということも活動のなかから見えてきます。

その他にも、地域の方に「何かあったときは、高校生がいてくれなきゃ本当に困るんだよ」と言ってもらいました。「僕らは必要なのだ」ということを、地域の方みんなから言ってもらえるま

す。「自分たちがここで存在しているということに価値があるのだな」ということを強く実感できたのはとてもいいことだったと思っています。

## 今後の課題

今後は、この単元を通して生徒の「社会に対してどう貢献していくか」という気持ちが高まっているのかを、どのように評価していくかということと、まだまだ不十分なカリキュラムの部分もあるので、生徒たちの意見を参考にして、来年どのようにカリキュラムを改善していくかということが課題です。

最後ですが、「究タイム」には1学年で12人の先生が関わっています。3学年でのべ36人の先生が総合に関わっているので、その先生方にどう理念を伝えて指導方法などの共有化図って、みんなの前で進んでいけるかということが、やればやるほど課題になってくるという状況です。

しかし、多くの先生が前向きに関わってくれて総合的な学習の時間が進んでいるという現状は、当初から比べたら、考えられないぐらいよい状況になっています。今、先生方としては、いろんな体験を通して課題が見えてきた状態で、それを解決するための先生方の総合がこれから始まるのかなという状況です。

以上です。ありがとうございました（拍手）。

司会 眺野先生、ありがとうございました。改めて感謝の拍手をお願いいたします（拍手）。